

ふなつ しょうへい
舟津 昌平経営学部 助教
博士(経済学) / 京都大学🏠 ホームページ URL
<https://sites.google.com/view/shoheifunatsu/>

主な研究業績

- 舟津昌平「制度ロジック多元性下において科学と事業を両立させる組織の対応—産学連携プロジェクトを題材とした事例研究—」『組織科学』, forthcoming.
- Shohei Funatsu & Yasuo Sugiyama, Knowledge Acquisition Obstructs Application: Qualitative Study on Collaborative R&D Project, Academy of Management Proceedings, 2019.
- 舟津昌平「制度ロジック多元性下における組織のイノベーションマネジメント—文献調査に基づく理論研究—」『赤門マネジメント・レビュー』第18巻4号, 117-146頁, 2019年.
- 舟津昌平「現場に根ざしたイノベーション正統化プロセス—モスフードサービスの『次世代モス開発部』導入を題材とした事例研究—」『日本経営学会誌』第39巻, 26-36頁, 2017年.

研究テーマ Research theme

組織におけるイノベーションと多元性のマネジメント

概要 Overview

私の研究対象は、組織におけるイノベーションの創造です。イノベーション概念を提唱したシュンペーターはイノベーションを新結合 (new combination) と表現しました。すなわち、異なるものの融合によって新しいものが生まれると考えたのです。イノベーションを起こすためには、異なるもの同士が協働する必要があります。私が近年研究対象にしている産学連携活動はまさにこの典型で、大学が生み出した研究と企業もつ事業化のノウハウや資源を用いて、世に新しいものを生み出そうとしています。

しかし当然ながら、イノベーションには問題も生じます。異なるもの同士が関わり合うことによるコンフリクト(軋轢、葛藤)はその代表例です。たとえば産学連携活動において、大学は学術論文をはじめとする研究成果を挙げることを主眼に置きます。対して、企業側は事業成果を求めます。これらは良し悪しの問題ではない、組織の成立の前提となる、根源的な志向(嗜好、思考様式、価値観、イデオロギー)の違いによるものです。大学はこういう理屈でこうしたい。企業はこう。一概にどちらが折れれば平和裏にプロジェクトが進むわけでもないで、この「多元な論理」を共存させた状態でいかにプロジェクトを成功に導き、イノベーションを創出するかという点が、私の研究における問題意識です。

この背景から、近年は創薬、医療機器、建築系企業など多岐に渡る業界の企業が関わる産学連携プロジェクトについて調査を進めています。

応用分野 Application areas

産学連携を経営学の視点から分析した研究になりますので、新規あるいは既存の産学連携プロジェクトに経営学者の観点から参画することが可能です。また、中小企業診断士の登録更新研修や、イノベーション論や経営組織論をテーマとした社会人および高校生向けの講義・セミナーの経験もありますので、講演や研修の講師にも対応できます。

共同研究等へのニーズ Need for joint research

産学連携を考えている、あるいは始めている組織において、経営学の観点から聞き取りや調査を希望される方と協働したいと考えています。過去には創薬、医療機器分野の調査に参加しており、2020年度現在、製造業を大きな枠組みとした某大学の産学連携プロジェクト(期間:3年)と、民間の研究所との共同研究に参画しています。